

## 新春企画展

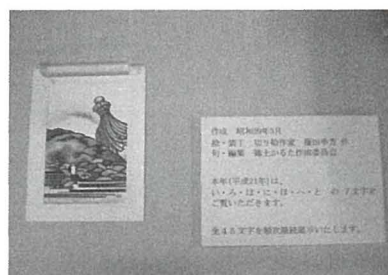
### ・「郷土かるた原画展」

平成21年1月6日（火）～平成21年2月1日（日）



「しまもとの郷土かるた」原画展は、昭和59年に郷土かるた作成委員会と切り絵作家、郷土史家の協力を得、作りあげた「しまもとの郷土かるた」を多くの来館者に紹介することを目的に開催しました。「しまもとの郷土かるた」は、島本の豊かな郷土を文化・風習など多分野にわたり、かつ素朴にまとめ、また繊細で美しくひとつひとつ丁寧に手掛けられた切り絵で表現され

ています。この度の展示では、絵札全45枚のうち「い」「ろ」「は」「に」「ほ」「へ」「と」の計7枚の原画を展示し、このかるたの原画を通じて島本の歴史や文化・民俗に触れていただきました。



## 民具・農具展

### ・「むかしの暮らし」

平成21年1月21日（水）～平成21年3月1日（日）

「むかしの暮らし」展では、田起しから収穫までの農作業の流れを実際に使用されていた農具・民具を展示し、パネル等で解説を行いました。また、町内全4校の小学3年生の社会科単元に、島本町の「むかしのしごととくらし」を学習する時期であり、各小学校の児童が学習見学に来館されました。資料館職員の説明を受け、足踏み脱穀機や唐箕・縄ない機に触れ、積極的に質問するなど、活き活きとした子どもたちの様子が伺えました。



## 講演 「関西の地勢と湊川の戦い」

平成20年10月25日（土）



講師 田 辺 眞 人 氏

私は歴史や比較文化論を勉強しております。島本町にお呼びいただき光栄に思っています。どうして、楠木正成が湊川で戦いをするようになったのか。地理的、地勢的にお話をいたします。お手元の資料を見ながら話を進めます。歴史の中でですね、1300年前から関西は日本の中心だったわけです。近畿の「畿」というのは首都圏。首都圏内を「畿内」といっておりました。明治になって、従来の畿内近くに置かれた府県をあわせて近畿と呼んだわけです。日本の歴史の中でもっとも大事な地域でございました。この地域

の中心に平安京つまり京の都がございました。

さて、法律による全国一元の政治を実現しようとする政治改革、つまり大化の改新の結果、律令国家が完成し、国は畿内から七つの国道とでもいうべき七道を整備しました。七道には駅（うまや）や関（せき）を置きました。国道一号とでもいうべき山陽道が都から瀬戸内を通して、西国さらに中国に通じる最重要交通路でした。平安時代、京の都からつまり京都盆地からこの道が出ていく地点が山崎・天王山麓で、ここは都の西の関門でした。東では京都盆地から近江盆地への通路、逢坂山が東の関門でした。山崎から西南へ、大阪平野を斜めに横切った山陽道は、西宮あたりで瀬戸内海々岸部に出ます。その西、芦屋から神戸市旧市街地一帯は、大阪湾岸の海岸線と、平行して走る六甲山地に挟まれた通路状の地形で、これを須磨で通り過ぎると、畿内（首都圏）の摂津が終り、須磨の国に入ります。神戸の旧市街地の山と海に挟まれた通路は首都圏の西の関門になっていました。都の東では、逢坂山の都の東門を出た交通路が近江盆地を通り過ぎ、伊吹山の南麓—伊吹山地と鈴鹿山地との間の谷筋一で、首都圏の東の関門に行きつくのと似ています。都の東西（逢坂山と山崎）、首都圏の東西（関ヶ原と神戸）という、東西2つづつ、合計4か所の関門を考えていただくと、湊川の戦い、つまり楠公さんが神戸で戦った理由が解ると思います。九州から、つまり西方から都に進攻しようとする足利尊氏の軍勢を途中で食い止めるには神戸か山崎で戦うのが最も効果的だったわけです。足利軍は水・陸両軍でしたから、それが合流しようとする瀬戸内海航路東端の港という意味からも、兵庫の津がある今の神戸市の場所が決戦の地に選ばれたわけです。これが、湊川の戦いが行われた理由ですが、神戸では、古代から中世への転換期に一の谷の戦いがあり、中世から近世への転換期にも、織田と毛利の戦い—摂津の花隈合戦と播磨の三木合戦—がありました。中世前期と中世後期の転換期に起こった湊川の戦いを、このように地勢の上から考えるのも興味深いテーマです。どうもご静聴ありがとうございました。

## 教育週間特別講演 「摂津の古代寺院と瓦」

平成20年11月16日（日） 講師 森 郁夫氏

島本町は古代から重要な水・陸運の要衝であります。古代の寺院はありませんが、鈴谷瓦窯があり古い時代の瓦が島本で生産されました。摂津国で7世紀後半まで営まれた寺は15ヶ所、ほとんどが重要な交通路に沿って営まれております。7世紀前半に営まれた寺に四天王寺がございます。文献史料では玉造の地に営まれ、後に移されたとあります。斑鳩は、大和盆地を流れる河川が大和川となって河内に流れる重要な土地であります。そこが、島本の地と大変よく似ているわけです。当時の朝廷はそれに着目し、聖徳太子を斑鳩に送り込み、太子は斑鳩宮を営まれ仏教を広められます。この地が交通の要衝であればこそ、高い文化を取り入れた寺院を造ろうとお考えになったのです。四天王寺が何処にあったか、やはり玉造の地ではと考えたくなります。上町台地は難波宮が営まれ、前期難波宮の下層からたくさんの瓦が出土しています。これは四天王

